

令和7年度 小林市立東方小学校 学校関係者評価書

4段階評価（4：期待以上	3：ほぼ期待どおり	2：やや期待を下回る	1：改善を要する）
--------------	-----------	------------	-----------

学校経営 ビジョン	「高い知性と豊かな心を持ち、心身共に健康で、互いに磨き合い高め合い、たくましく生き抜く児童生徒の育成」を目指し、9年間を見通した東方中学校との一貫教育を基盤に、支援学校との交流の充実も図りながら、本校の歴史や伝統、地域や保護者の思いや願い、児童の実態等を踏まえ、全職員が持てる力を存分に発揮し、主体的・組織的に参画する学校経営を実施する。【子どものつよさや可能性を最大限に引き出し、鍛え、伸ばす教育活動の創造】		
--------------	---	--	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価 教職員総合	関係者 評価	学校関係者評価のコメント	
知育	学 力 の 向 上	1 ICTの効果的な活用と情報モラルの育成 ・教育効果の高まる指導法の工夫（日常的なタブレットの活用、デジタルドリルの活用など） ・メディアコントロール	全学年において、授業の中で児童や先生方が日常的にタブレットを活用しており、週8時間以上の使用は達成している。タブレット内のソフトについては、AI型ドリルやAIドリルが導入されており、児童が復習や補充学習・発展学習のために積極的に活用する姿が見られた。また、ロイノートの導入により、先生と児童のやり取りが頻繁にできるようになって授業も活性化している。高学年ではメディアコントロールについて講師をお呼びし、何回も学ぶ機会を作れた。さらに、長期休業中には、タブレットの持ち帰りをし、家庭でも活用する環境を少しずつ整えることができた。	3.5	3.5	ICTの活用は、これからも社会の中でどんどん増えていくことは間違いないと思いますので、今後もICTの活用やデジタル化に積極的に取り組んでいただき、よいものを取り入れて使用できるよう進めていってほしい。 長期療養を自宅で行わなければならない時（学校を長く休む時）などにおいて、現在のタブレットを使用した授業や連絡手段はとてよよいと思います。 よんみろ会については、大変すばらしい活動だと思いますが働きながらでは時間を調整することが大変だと思いますので、参観日等に合わせた活動や回数を減らすなど対応をお願いしたい。 経年データ・全国データを100としたとき、すべての学年で数値が下回っているのが頭張ってほしい。 時代に合った学習の取組がなされていて、大変すばらしいと思います。ICTに頼らない環境での授業も重要だと思っておりますので、よろしくお祈りします。 ICTを活用した授業や読書活動、地域と連携した体験学習など、児童の学びを大切にしたい教育活動が進められていると思います。
		2 日々の授業の充実 ・個に応じたきめ細かな指導の徹底（UDを意識） ・主体的・対話的で深い学びの充実のための指導の工夫	本校の主題研究の中で、NRTテスト、全国学力・学習調査、みやぎ学力テストの分析を各学年で行い、本校児童が弱いとされる学習内容について知り、タブレット等を活用して何度も繰り返し問題に取り組みせることで学力向上を図った。学級では、TVやPCを使って視覚化による理解を図り、タブレットではデジタルドリルによる個別最適な学びを進めている。今後も、グループ活動やペア活動を取り入れて、話す機会を増やし、主体的・対話的で深い学びができる場を設定しながら学力の向上に努めていく。			
		3 読書の推進と聞く力の育成 ・よんみろ会、学級担任等による読み聞かせ ・家庭読書の推進・読書量の増加 ・図書館協力員との連携	よんみろ会の定期的な読み聞かせにより、児童が本に親しむ機会が増えてきている。家庭読書についても、長期休業中の「家読（うちどく）」の実施により、少しずつではあるが読書量も増加してきている。また、図書室の移動や新刊の導入、図書委員会や図書館協力員と連携しながらの図書館まつりや読書ビンゴ、福本等により、児童が興味をもって図書室に行こうとする姿が見られた。また、絵本作家の来校などの企画も行い、みんなが楽しめる環境づくりを行っていた。			
		4 地域人材、素材の活用及び一部教科担任制 ・関係機関、英語専科との連携 ・東方地区のキャリア教育、文化財の活用	英語専科教員・ALTの先生により、デジタル教材等を活用して、授業の充実を図っている。キャリア教育に関しては、キャリア教育支援センターから地域の方や外部の有識者を活用して、メディアコントロール、自動車、ロボットづくり等の授業を行った。今後も、地域の方々を活用した体験活動などを行っていく。			
徳育	心 の 教 育 の 充 実	1 定期的な教育相談の実施と見届け ・ラポートフォーラム・教育相談の充実 ・全職員で行ういじめ・不登校対策の徹底	本年度：いじめ1件、不登校傾向2件 校内では、毎月1回人権アンケートとラポートフォーラムを行い、児童の実態や様子を共通理解している。状況に応じて、支援委員会を開催し、支援体制はいつも整っている。外部との支援体制は、市教育委員会、チーフコーディネーター、スクールカウンセラー、スクールサポーター、スクールソーシャルワーカー、通所施設等と連携をとっている。事が起こる前に、必ず相談し、保護者、管理職・担任・生徒指導主事・特別支援コーディネーターとも話をしながら、未然防止を図っている。保護者と学校の共通理解と児童の居場所づくりが大きな課題である。	3.5	3.5	支援学校の児童の親と話す機会があったのですが、東方小の児童たちは優しいですねという言葉がいただきました。特別支援学校との交流により、助け合いや優しい心遣いが出来ているように思います。 自然災害はいつ起こるか分かりません。避難訓練等を通じて、自主防災の力も身に付け、地域も含め、連携が取れる体制も整えていかなければいけないと思う。 数値目標に対して一番達成してもらいたい項目であった為、目標達成できず残念です。 いじめ防止に一生懸命取り組んでいらっしゃると思いますが、引き続き最優先にお願いしたいです。 支援学校と一緒にいるときは、子どもたちにとってもプラスになっていると思います。今の優しく思いやりのある心を大事にしてほしいと思います。 特別支援学校との連携により、さまざまな共同学習を学べる機会ができて、東方小の児童は私たち大人よりも思いやりをもった行動ができていていると思います。 安心して過ごせる環境づくりや交流活動が進められていると思う。 自己肯定感には個人差もあると思います。安心して挑戦できる機会をさらに増やしていくと良いと思う。
		2 特別支援学校との連携によるインクルーシブ教育の推進 ・交流清掃、ふれあい交流、各種行事等 ・共同学習	本年度は、全学年において交流清掃・ふれあい交流・運動会や持久走大会等の行事を楽しく行った。共同学習においては、教職員同士が何回も話し合いを重ねて、児童にとって多く学べる機会を作ることができた。普段の生活の中で、児童同士もお互いの良さを知り、優しい心をもって仲良く元気に過ごすことができています。			
		3 自他の生命やまきりを守る指導と危険回避能力の育成 ・避難訓練・登下校・集団下校等、道徳の時間の学び	年4回の避難訓練（風水害・不審者・地震・火事）を実施し、危機意識を高め、回避能力の育成に努めている。また、通学路点検を実施するとともに、年度のはじめや学期等の際に登校班会や集団下校を行い、児童が安全に登下校できるように指導してきた。現段階で学校内外での大きな事故や事件は起こってない。			
		4 主体性の育成 ・学校生活での自分で考え、やってみる場の設定 ・ボランティア活動の推進	学校生活の中で、授業を中心にあらゆる活動においてやってみる場を設定した。個人差はあるが、自ら挑戦しようとする児童も増えてきている。今後も自己肯定感を向上させるための様々な取組を行う必要がある。またボランティア活動に関しては、自分から進んで行う児童は少ないが、ボランティアの意味や考え方を理解させることで、積極的に取り組む態度を育成していきたい。			
体育	体 力 の 向 上	1 体力の向上と運動を楽しむ態度の育成 ・体育の授業の充実と運動量の確保 ・昼休み時間の外遊びの奨励 ・三校合同大運動会の充実 ・持久走、なわとび運動の推進	本校の児童は、昼休みはとて元気で外で遊ぶ児童が多い。特に異学年の児童と仲良く遊ぶ姿が見られた。体育の時間においても教職員が工夫して活動を行わせ、十分な運動量を確保している。合同運動会・持久走大会においても、支援学校と一緒に競技のやり方を考えて実施することで、個人個人のゴールを目指して行い、達成感を味わわせることに大変意義があったと感じる。	3.3	3.5	部活動の活動なども少なくなっている中で、体力の向上など難しくなっていると思いますが、外遊びや、教職員の工夫によって十分な運動量が確保できているみたいでありたいです。私たちも、児童が歩いて登下校し、体力向上ができるよう、通学路の安全面の向上にも努めていきたいです。 昼休み時間に学校の前を通ると先生と走り回っている姿を目にします。業務が忙しいですが、子どもたちの為に一緒に遊んでくれる姿がとてありがたいです。 むし歯治療、目標値90%に対し、65.5%は低いと思うので、この世の中に1人しかいない自分の体を大切にしてほしい。 むし歯の治療率が数値目標とかけ離れているので、各家庭で今一度意識付けをしていただきたいと思えます。 体づくりや保健指導は計画的に行われていると思う。
		2 立腰指導の徹底と話を聞く態度の育成 ・授業開始・終了、集合時 ・時と場に応じた行動	普段の授業や集会等とおして、姿勢の保持と話を聞く態度の定着を図っている。少しずつ長時間姿勢を保持できる児童は増えてきているが、今後も引き続き指導していく必要がある。			
		3 心身の健康と保持増進 ・むし歯治療、フッ化物洗口の推進 ・歯磨き指導の徹底 ・早寝・早起き・朝ごはん	フッ化物洗口については、ほぼ計画通りに実施できている。保健体育部を中心に啓発を行っている。むし歯治療については、現段階ではむし歯治療率62.1%である。義歯教諭の定期的な「保健だより」により、むし歯治療や歯磨き、早寝・早起き・朝ごはん等の推奨・感染症等の予防を行い、家庭にも意識付けを図っている。今後も継続して行っていく。			
食育	食 育 の 推 進	1 食育週間の実施 ・年3回	5月に「食育にチャレンジ」、8月に「夏の贈り物in夏休み」を行って、家族でお弁当や料理を作る機会をもたせ、食に関する意識を高めることができた。紙面に写真や言葉でまとめたものを掲示し、食への関心をもたせた。また3月の遠足で弁当を作る「食育にチャレンジ」を行う予定である。	3.4	3.7	地域への愛着につながる食育指導はとてありがたいことです。自分たちで育てることにより、食べ物の大切さなどにも気づいてもらえるかと思う。 父親目線からすると、台所に慣れない手つきで包丁を使い、普段しないお手伝いをしていると、いい経験だなと食育週間のありがたみを感じる。母親からすると大変なんだらうなと思います。 食育を通して、食べ物の向こう側に生産者のことを思い浮かべると、残食が出ないように食べると思えますので、大変良い取組だと思えます。 料理や収穫などの体験を通して児童が楽しみながら食に親しむ様子が見られて良いと思う。
		2 地域への愛着につながる食育指導 ・郷土料理・地産地消を取り入れた給食・調理、体験活動	生活科や総合的な学習の時間において、地域の方の畑を使ってお育て、収穫を行う体験活動、収穫したものを調理する活動等を行っている。また、給食では「給食感謝集会」において調理の様子や作る人の思いを見たり感じたりすることで、食物を大切に食べようとする気持ちや地域への感謝の気持ちを考えることができた。			
		3 生産者への感謝の気持ちの育成 ・生活科、こすもす科、感謝集会等による指導	生活科での学校の周り探検、こすもす科での学び、さらには給食感謝集会の実施等により、生産者への感謝の気持ちの育成が行われている。給食についても、生産者の気持ちを考えながらできるだけ残食が出ないように各学年で食べる努力をしている。			
その他	学 信 校 類 づ さ く れ り	1 働き方改革の推進 ・ICTを取り入れた業務の効率化 ・フレックスタイム・留守番電話	ICTを取り入れることで、業務はかなり効率化されている。朝早く来て、早めに帰るフレックスタイムの導入、並びに留守番電話の導入により、教職員の負担軽減と時間内に精一杯働こうとする考え方の変化が少しずつ出てきた。まだまだ業務内容が多く、時間内に終わらせることは難しい部分もあるが、職務内容を厳選して少しずつ職員全体で時間外勤務をしないように意識して、さらに取り組んでいく必要がある。また、教職員のコンプライアンス意識も高く、職員同士もコミュニケーションを取り合い、全体で働きやすい環境を整えている。	3.6	3.3	学校とPTA、地域との連携をもっと深めていき、学校や地域でのイベント等を皆で盛り上げ、安全で安心な地域作りを行うとともに、将来、東方地区で少しでも多くの人が生活できるよう考えていければよい。 留守番電話やLINEの活用は先生方の負担も減少でき、とてよよいと思います。ただ、ホームページについては、数値目標も月1回以上の発信となっているからなのか、掲載がここ数か月ようやく掲載されるようになったのではと感じています。お忙しいとは思いますが、普段の子どもの様子を楽しくみている保護者もいますので、今後検討していただきたいです。 働き方改革については、時間の使い方をうまく利用し、保護者の要望に応えてほしい。保護者、地域、教職員の皆さんとこれからも開かれた学校づくりに取り組んでいきたいと思います。 ICTの活用により業務の効率化が進み、教職員の負担軽減につながっており、良いと思う！
		2 学校の校内支援体制の確立 ・児童支援施設、特別支援学校、外部機関との連携	生徒指導主事や特別支援コーディネーターを中心に、支援体制を整えている。また、日常生活において児童支援施設、特別支援学校と連携を図るために常に連絡を取り合い、相談しながらあらゆることに対応している。問題が生じた際に対応できるように常日頃から関係者とコミュニケーションを取り合い、共通理解を図ってみんなで取り組んでいる。			
		3 地域との連携による開かれた学校づくり ・学校運営協議会、青少年育成市民会議、地域の方々と協力して一緒に行う活動	学校運営協議会、青少年育成市民会議等は中学校と協力しながらほぼ計画通り実施できている。KSSVCキャリア教育センターとも連携し、数多くの活動を行うことができています。また、PTA役員を中心に地域との行事や一緒に行う活動に取り組めた。			
		4 情報の発信 ・ホームページやLINEメールの活用	本年度より、LINEメールを活用して学校と保護者の連絡体制を整えた。必要な時に、必要なところへ内容を文書や画像・データで送ることができ、職員全体で多く活用し、保護者にも周知することができた。ホームページも各学年での行事等について更新し、学校の様子を伝えることができた。今後も情報を発信していく必要がある。			

次年度の方向性についての 校長所見	①(知育)自ら考え判断し、行動する主体的な態度を養うため、自己決定を行う活動を多く取り入れる。また、話すこと・表現力などの伝える力の育成を図るとともに、個に応じたきめ細かな指導を行い「できた!」を増やす授業に取り組んでいく。 ②(徳育)すべての困難さのある児童に寄り添い、温かみのある居場所づくりを推進していくとともに、特別支援学校と連携したインクルーシブな学校運営を推進していく。 ③(体・食育)メディアコントロールなどを可視化し、家庭でのルール作りを支援するなど家庭と連携した健康・生活習慣の改善に努める。 ④行事だけでなく日常の学習風景を学校便りや学校ホームページの充実に取り組み、情報発信の充実を図る。
----------------------	--